

たまねぎレポート【364号】



平成30年2月26日

阪南青果株式会社

社内報

1月の天候は、東・西日本で強い寒気の影響で気温が低かった。東・西日本の日本海側で降雪量が多かった。22～23日にかけて、関東甲信越地方や東北の太平洋側では大雪となった。2月の初旬から連続の寒波による降雪で、北陸地方は30数年来の大雪となり、交通障害が発生した。

気象庁が発表した3～5月の3か月予報では、この期間の平均気温は、北日本で平年より高く、東・西日本で平年並み亦は高い。降水量は、北日本の太平洋側で平年並み亦は多い。沖縄・奄美では平年並み亦は少ない。月別予報は、次の通り。

3月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪亦は雨の日が多く、太

平洋側では平年に比べ晴れの日が少ない。東日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わる。東日本の太平洋側と西日本では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ない。沖縄・奄美では、平年に比べ曇りや雨の日が少ない。

4月、北・東日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わる。北・東日本の太平洋側と西日本では、天気は数日の周期で変わるが、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美は、平年に比べ曇りや雨の日が少ない。

5月、北・東日本の太平洋側では、天気は数日の周期で変わる。東日本の日本海側と西日本は、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

需要(市場)の動き

野菜の概況

1月の建値市場の野菜の入荷は、いずれの市場も前年比大幅減であった。平均単価はいずれの市場も前年比20～30%高であった。市場別の入荷と平均単価は、札幌市場の入荷は前年比91%、平均単価はkg¥232前年比121%。東京市場は前年比87%の入荷で、平均単価はkg¥321前年比127%。名古屋市場は前年比91%の入荷で、平均単価はkg¥290前年比123%。大阪本場は前年比90%の入荷で、平均単価はkg¥307前年比125%。福岡市場は前年比89%の入荷で、平均単価はkg¥220前年比132%となっている。

1月の玉葱の建値市場(上記)の販売量は、24,813トン前年比87%で、前月に続き前年を下回った。いずれの市場も、入荷は前年比減で価格は前年比高であった。市場別の入荷量と平均価格は、札幌市場の入荷は前年比95%で、平均単価はkg¥77前年比122%。東京市場の入荷前年比92%、平均単価はkg¥107前年比111%。名古屋市場の入荷は前年比80%で、平均単価はkg¥96前年比120%。大阪本場の入荷は前年比73%で、平均単価はkg

¥112前年比119%。福岡市場の入荷は前年比90%、平均単価はkg¥90前年比100%となっている。

日本農業新聞社の集計値では、全国主要7地区の代表荷受7社の、1月の主要野菜14品目の販売量は、75,552トン前年比88%(前月比84%)、平均単価はkg¥202前年比133%(前月比113%)で、数量減の単価高となっている。販売量が前年比増となっている品目は、トマトの18%増と、ナスの3%増の2品目だけ。前年比減となっている品目は、ホウレンソウの前年比30%減、レタスの29%減、ダイコン・タマネギの23%減など11品目。価格が前年比高となっている品目は、ダイコンが前年比130%高、レタスが85%高、キャベツが79%高など12品目。因みにタマネギは前年比11%高。前年比安となっている品目は、ジャガイモが前年比40%安、トマトが7%安の2品目だけとなっている。

東京都中央卸売市場の1月の野菜の入荷は、108,242トン前年比87%(前月比87%)。平均単価はkg¥321前年比127%(前月比102%)で総じて堅調に推移し、多くの品目で品薄高となった。主要品目で入荷が前年を上回った品目は、ナスが前年比111%、トマトが109%、バレイショが102%の3品目。前年を下回った品目は、レタスの前年比65%を始め、ダイコンが71%、ホウレンソウが72%など12品目。販売単価が前年比高であった品目は、ダイコンがkg¥193で前年比239%、レタスがkg¥450で前年比206%、キャベツがkg¥198で前年比186%など12品目。前年比安であった品目は、バレイショがkg¥123で前年比62%、トマトがkg¥397で前年比94%の2品目だけとなっている。

東京都中央卸売市場の1月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	108,242	87.3	86.6	321	127.4	102.2
た ま ね ぎ	9,520	92.0	87.5	107	111.2	115.1
は く さ い	13,431	97.3	82.7	149	159.4	141.9
キ ャ ベ ツ	11,821	79.9	90.4	198	186.3	127.7
だ い こ ん	9,325	70.9	85.7	193	239.3	127.8
に ん じ ん	6,012	88.4	69.7	154	100.2	115.8
ば れ い し ょ	7,390	101.7	90.7	123	61.8	109.8
ト マ ト	5,692	109.0	128.0	397	93.7	73.4
レ タ ス	5,144	65.2	99.2	450	205.7	82.3
き ゆ う り	4,720	96.1	111.6	462	117.2	88.3
ね ぎ	4,586	88.3	80.8	363	112.1	107.4
か ぼ ち ゃ	2,134	95.1	63.2	171	93.5	95.5
な が い も	695	101.6	76.4	357	75.6	95.0
れ ん こ ん	694	115.2	50.2	480	74.5	92.5
に ん に く	235	87.7	70.6	1,041	89.8	97.7

玉葱の概況

東京市場

東京都中央卸売市場の1月の玉葱の販売量は、9,520トン前年比92%（前月比87%）で減少傾向が続いている。主力の北海物は、産地の出荷調整もあり、入荷は8,676トン前年比97%、占有率は91%前年比4ポイントアップ。中国物は399トンの入荷で前年比161%、占有率は4%で前年比2ポイントア

アップ。静岡物は370トンの入荷で前年比35%、占有率は4%で前年比6ポイントダウン。中国物は360トンの入荷で前年比161%、占有率は4%で前年比2ポイントアップ。平均単価はkg¥107前年比111%、強保合で推移した。産地別の平均単価は、北海物がkg¥100前年比127%。静岡物がkg¥290前年比122%。中国物がkg¥84前年比90%となっている。旬別の平均単価は、上旬がkg¥101、中旬がkg¥103、下旬がkg¥115の尻上がり傾向で推移した。

2月に入り、北海物は市場の在庫は殆どなくなり、荷動きに回復の気配が見受けられたものの、割安品を望む声も多く、買参人の買い気は今一つであった。静岡物の入荷は、主要荷受け重点で前年比80%前後だが、高値を嫌ってか売れ残りが出ている。愛知物も顔見世程度のお荷が始まったが、少量なため却って売りづらい状態であった。月半ばからも、北日本の相次ぐ大雪で、輸送が乱れ、北海物の入荷減が続いたが、引きも今一つで品薄高にはならなかった。昨今では、北海物の入荷は潤沢だが、荷動きが鈍く荷凭れ傾向で、市場在庫は増えている。他方、静岡、長崎の新物は入荷が少なく、量販店等の引き合いが強まり、品不足傾向が続いている。東京市場の上旬のお荷は、前年比96%で平均価格はkg¥118前年比117%。中旬のお荷は前年比79%で平均単価はkg¥124前年比120%となっている。

名古屋市場

名古屋市中心卸売市場の1月の玉葱の販売量は、5,132トン前年比80%（前月比67%）で、前年比、前月比ともに減であった。主力は北海物で、入荷は5,054トン前年比83%、占有率は98%で前年比2ポイントアップ。静岡物は57トンの入荷で前年比22%。平均単価はkg¥96前年比120%（前月比117%）、で強保合の推移であった。産地別の平均単価は、北海物がkg¥91前年比128%、静岡物（今年は殆どがホワイト）はkg¥450前年比167%、となっている。

2月に入って、北海道産地の先高ムードが伝わり、荷動きが回復傾向となり、市況は強含みとなった。例年、産地からの値上げ要請が始まる時期なので、それなりの準備はしていた。静岡物は入荷が少量で、引き合い鈍く弱保合。愛知物も顔見世程度の入荷で、売れ行きは今一つ。月半ばを過ぎても、静岡、愛知物の入荷が少なく、北海物の動きが良くなると予想したが、案外に動きが鈍く、産地の要望を踏まえて、¥100程度の値上げ販売をした途端に荷動きが停滞した。静岡物は日量4～5トンが入荷となり、引き合いが強く品不足状態となった。昨今では、北海物は入荷が順調だが、荷動きは今一つで荷凭れ気味、静岡物は入荷は少なく、引き合い強く品不足傾向で強保合。愛知物は、品質的には静岡物に比べて見劣りするも、代替え需要で静岡と同値販売となっている。

大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の1月の玉葱の販売量は、2,602トン前年比73%(前月比72%)で、前年比、前月比ともに大幅減であった。主力は北海物で入荷は2,007トン前年比66%、占有率は77%で前年比8ポイントダウン。兵庫物は485トンが入荷で前年比165%、占有率は19%で前年比11ポイントアップ。静岡物は108トンが入荷で前年比46%、占有率は4%で前年比3ポイントダウン。平均単価はkg¥112前年比119%(前月比122%)で、強保合で推移した。産地別の平均単価は、北海物はkg¥96前年比131%、兵庫の冷蔵物はkg¥134前年比74%、静岡物はkg¥307前年比120%。前年比入荷減の北海、静岡物は前年比高、前年比入荷増の兵庫物は前年比安であった。

2月に入ってから、市況は総じては保合状態が続いたが、内容的には軟化傾向であった。兵庫の冷蔵物は表面相場に変わりはないものの、引きが弱く、高値が少なく価格維持が精々であったし、北海物はJA物の一部に人為的な高値はあったものの、売れ行きが今一つで総じては弱気配であった。静岡の新物は依然として入荷は少なめで、大きな値下がりはない。月半ばには、淡

路産地のJAから、前年比安が続いている冷蔵物の値上げ販売の要請があり、呼応したことで中旬の平均価格は月上旬比10%近く値上がりした。北海物は、北日本の大雪の影響で入荷は不安定となったが、価格維持優先の販売で強含みの販売となった。静岡物のは入荷は依然少な目で、引き合いが強く堅調を維持した。昨今の市況は、淡路物は保合、北海物は入荷順調でやや荷凭れ気味、静岡物のは入荷は増加傾向にあるものの、品薄高を維持している。長崎物も入荷が始まり、価格は静岡物に追随している。1日～20日の入荷は前年比98%、平均価格はkg¥114前年比120%。主力の北海物のは入荷は前年比95%、兵庫の冷蔵物のは162%、静岡物のは74%となっている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の1月の玉葱の販売量は、3,200トン前年比90%（前月比95%）で前年比、前月比ともに減であった。主力は北海物で販売量は2,919トン前年比91%、占有率は91%で前年と同じ。中国物のが196トンで前年比94%、占有率は6%で前年と同じ。香川物のが29トンで前年比144%、占有率1%で前年比0.4ポイントアップ。平均単価はkg¥90前年比100%（前月比86%）で総じては弱保合で推移した。産地別の平均単価は、北海物のがkg¥89前年比106%、中国物のがkg¥77前年比91%。香川物のがkg¥166前年比58%。北海物のは前年比高、中国、香川物のは前年比安となっている。

2月に入ってから、北海産地の値上げ要請が強く、2L、L大¥2,200の販売に努めたが、高値敬遠で売れ行きが低迷した。香川の冷蔵物は従来通り学校給食向け定価定量販売。長崎の新物のは入荷が始まったが、産地から価格安を指摘された。月半ばからは、北海物のは主力JAが出荷数量を絞ったことで、入荷は少なくなったものの、荷動きは鈍く販売環境は厳しくなった。冷蔵物のは香川が終了し、愛媛に切り替えて給食向けに販売。長崎の新物のは日量2～3トンの販売だが、指値が高く品質は今一つであった。昨今の市況は、北海物のは入荷は順調だが、2L、Mの比率が少なく高値販売に努めているが、L大、Lは荷

凭れ傾向で在庫増になっている。長崎物は引き合い強く、品薄高が続いている。此の先の春高相場を期待している。1～20日の販売量は価格優先の販売で、前年比51%、平均単価はkg¥110前年比117%となっている。

2月26日(月)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷274トン、 強保合、

北 海 20kgDB2L¥1,900～1,750、 L大 ¥1,900～1,700、 L ¥1,800～1,700、
M¥1,500～

〃 20kgNT2L¥1,800～1,700、 L大 ¥1,850～1,750、 L ¥1,800～
M¥1,550～

【太田市場】 入荷528トン、 静岡・長崎強保合、 北海弱保合

北 海 20kgDB2L ¥2,200～2,000、 L大 ¥2,100～1,800、 L ¥2,000～1,800、
M¥1,700～1,600。

静 岡 10kgDB2L ¥2,400～2,200、 L ¥2,600～2,500、 M ¥2,300～2,200、
B ¥2,000～1,900。

長 崎 10kgDB2L ¥2,200～2,000、 L ¥2,500～2,400、 M ¥2,200～2,100、

【名古屋北部】 入荷243トン、 弱保合

北 海 20kgDB2L ¥2,200～2,000、 L大 ¥2,200～2,000、 L ¥2,000～1,900、
M¥1,800～1,700。

静 岡 10kgDB2L ¥2,100～2,200、 L ¥2,500～2,400、 M ¥2,200～2,100、
B ¥2,000～1,900。

愛 知 10kgDB2L ¥2,100～2,000、 L ¥2,500～2,400、 M ¥2,200～2,000。

【大阪本場】 入荷39トン、 弱保合

兵 庫 10kgDB2L ¥1,800～1,500、 L ¥1,800～1,500、 M ¥1,500～1,300。

北 海 20kgDB2L ¥2,100～2,000、 L大 ¥2,200～2,000、 L ¥2,000～1,800、
M ¥1,800～1,700。

静岡 10kgDB2L ¥2,500～2,400、L ¥2,700～2,500、M ¥2,400～2,200、
B ¥2,300～2,100。

長崎 10kgDB2L ¥2,500～2,300、L ¥2,700～2,500、M ¥2,500～2,300。

【福岡市場】 入荷161トン、 弱保合

愛媛 10kgDB2L ¥1,700～1,600、L ¥1,700～1,600、M ¥1,500～1,300、

北海 20kgDB2L ¥2,300～2,200、L大 ¥2,300～2,000、L ¥2,200～1,900、
M ¥2,000～1,800。

長崎 10kgDB2L ¥2,300～2,200、L ¥2,500～2,300、M ¥2,300～2,100。

供給(産地)の動き

北海道産地の在庫は、地区別にバラツキがあり、石狩、空知が少なく、網走が多い。全道的には春高相場を期待している。既に出荷は終盤期を迎えており、3～4月相場が収益に与える影響は左程大きくはない。貯蔵技術の向上で、現在も品質的な劣化は殆どない。現在、赤玉葱の在庫が多く、販売が苦しくなっている。産地では既に次シーズンの播種が始まっている。

府県の冷蔵物は、終盤を迎えているが、淡路島内に在庫が多く、計画出荷が求められている。早生物は、生育遅れで出荷は後ズレしていたが、此の先温暖な気候に恵まれれば、意外に回復が進み豊作型になる可能性がある。

輸入は、中国は増加傾向にあるが、ニュージーランドの作柄が不良で入荷減の予想で、タイなどがやや増えそうな動きである。

北海道産地

年明けの出荷はいずれの地区も、絞り込んでおり、後ズレ傾向である。在庫の主力は道東地区で、特に、商系の出荷が後ズレしている。既に出荷は終盤期を迎えており、市況眺めの出荷を続ける時期を逸している。昨今の市況は強含みに推移しているものの、需要は伸びていない。赤玉の在庫増に頭を抱えている向きもある。既に、いずれの産地も播種期を迎えて、ハウスの準備に追わ

れている。

府県産地

府県の冷蔵物の在庫は、淡路島内以外は少量だが、淡路の在庫は多い。現在の島内在庫は、淡路物で1,700トン前年比127%、淡路以外の国内産が3,660トン、計5,360トンで前年比193%となっている。静岡の早生は、冷え込みが続き出荷は後ズレしていたが、抜き取り収穫から総堀の収穫に入り、出荷は此の先本番を迎える。長崎も生育はやや遅れているものの、3月半ばには出荷が本格化する。長崎、佐賀を始め早生の作付は全国的に増加傾向にあり、3～4月の出荷量は前年を上回ると見ている。

外国産地

1月の輸入は速報値で、22,038トン前年比116%(前月比97%)で、前月に続き増加傾向となっている。国別では中国が21,568トン前年比116%。アメリカが399トン前年比45%、タイが70トン前年比146%となっている。

中国、現在も輸入物の産地は甘肅省であり、在庫は多く、現地価格はkg¥10～12と言う。現在、旧正月で輸出価格は強含んでおり、20kg・C&F・\$8.60の水準だが、此の先大きく値上がりすることはない。と見ている。

ニュージーランド、栽培面積は前年並みだが、11～12月の生育期に高温旱魃が続き、生育が遅れ球肥大が停滞した。更に、1～2月は高温多湿で、病害の発生など悪条件が重なり、不作が確実視されている。球流れは小振りで70mmアップが少ない。価格は20kg・C&F・¥1,250前後の様様。

タイ、詳細な栽培情報は入手していないが、出荷のピークは3月である。府県の新物の生育遅れで、代替え需要で少量の入荷が続くと見ている。

3月の市況見通し

北海道産地の春高期待に呼応して、昨今の荷受け各社は、価格優先の販売態勢にあるも、需要が伸びず市場在庫が増加傾向となっている。他方、量販店

などでは、早くから春商材の府県の新物に関心を強めている。加工筋では、ホクレンの供給カットで原料不足が心配されたが、輸入物の手当て買いが少なく、心配されたほどの動きはない。加工原料不足が深刻化しなければ、春の品薄高は回避される。府県の極早生産地では、当初から従来の早や出し優先の栽培を見直す動きがあり、出荷の後ズレは冷え込みの遅れだけではないと思う。静岡の当初の出荷計画も、従来の2月重点から3月重点になっているし、2月に長崎産地を訪問した際も、生育の遅れは目立ったが、例年になく氷点以下の低温が続いたこともあるが、早や出し優先の栽培は、単価高だが収量が少なく、裾物(外品)の発生率が高く、収益性が低い。定植を気温が低くなる時期にズラスト、収量が増え裾物の発生率が少なく、収益的には遜色がなく、むしろ良くなるほか安定化する。との声がある。いずれにしても不作にならない限り、3~4月の府県産の出回りは、前年比増加傾向となる。市況見通しは、中旬は北海物20kgL大¥2,200~2,000。府県の新物10kgL2,000~1,700。を予想。(了)